

(2022年12月11日実施)

主催 公益財団法人 全国商業高等学校協会
令和4年度(第14回) 管理会計検定試験
審査基準

【1】

1	2	3	4	5	6
オ	シ	コ	イ	カ	ク

【2】
問1

(1)	19,800,000	円		
(2)	45	%		
(3)	1,200,000	円		
(4)	213,000	円	増加・	減少

する。

問2

(1)	製品X	1,600 個
	製品Y	2,400 個
(2)		2,912,000 円
(3)		1,200 時間
(4)	製品X	1,600 個
	製品Y	1,200 個
	新製品Z	3,000 個
(5)		5,765,600 円

問3

	<u>X製品</u>	<u>Y製品</u>	(単位：円)
事前コスト	(380,000)	(450,000)	
事後コスト	(98,010)	(53,978)	
ライフサイクル・コスト	<u>(478,010)</u>	<u>(503,978)</u>	

よって、X 製品の方が有利である。

【3】

(1) 現金収支予算表の現金期末有高	5,730,000	円
(2) 当期の材料仕入高	12,285,000	円
(3) 製品Wの売上高	17,280,000	円
製品Xの売上高	14,720,000	円
(4) 見積損益計算書に計上する売上原価	24,864,000	円
(5) 見積損益計算書に計上する販売費	4,772,000	円
(6) 見積貸借対照表に計上する製品	3,339,000	円

【4】

問1

		<u>全部原価計算による月次損益計算書</u>	(単位：円)
I	売上高		(31,590,000)
II	売上原価		
	1. 月初製品棚卸高	(1,965,030)	
	2. 当月製品製造原価	(15,896,600)	
	合 計	(17,861,630)	
	3. 月末製品棚卸高	(2,606,000)	(15,255,630)
	売上総利益		(16,334,370)
III	販売費及び一般管理費		
	1. 販売費	(3,155,000)	
	2. 一般管理費	(1,950,000)	(5,105,000)
	営業利益		(11,229,370)

問2

		<u>直接原価計算による月次損益計算書</u>	(単位：円)
I	売上高		(31,590,000)
II	変動売上原価		
	1. 月初製品棚卸高	(1,657,380)	
	2. 当月製品製造原価	(13,346,800)	
	合 計	(15,004,180)	
	3. 月末製品棚卸高	(2,188,000)	(12,816,180)
	変動製造マージン		(18,773,820)
III	変動販売費		(1,755,000)
	貢献利益		(17,018,820)
IV	固定費		
	1. 製造間接費	(2,520,000)	
	2. 販売費	(1,400,000)	
	3. 一般管理費	(1,950,000)	(5,870,000)
	営業利益 (直接原価計算)		(11,148,820)
V	固定費調整		
	1. 月末製品および仕掛品原価に含まれる固定費		(460,000)
	2. 月初製品および仕掛品原価に含まれる固定費		(379,450)
	営業利益 (全部原価計算)		(11,229,370)

【5】

問1

- (1) この注文を引受けた場合の次期における営業利益 13,460,000 円
- (2) この注文を引受けた方が 2,160,000 円 だけ (有利) ・ 不利) である。
- (3) 当期の利益を下回らないための既存顧客に対する最低販売単価 11,760 円

問2

- (1) 甲製品の貢献利益 2,500 円/個
- 乙製品の貢献利益 3,300 円/個
- (2) 甲製品 2,500 個を追加加工し、乙製品として販売した方が、
800,000 円 だけ (有利) ・ 不利) である。